

小平市教育委員会会議録

—— 8 月 臨 時 会 ——

平成22年8月5日（木）

開 催 日 時 平成22年8月5日(木) 午後2時00分～午後4時45分
開 催 場 所 市役所6階大会議室
出 席 委 員 伊藤文代委員長
吉田昌子委員長職務代理者
荒畑忠弘委員
森井良子委員
阪本伸一教育長
説明のための出席者 関口徹夫教育部長
内野雅晶教育部理事兼指導課長
阿部和生教育庶務課長
鶴巻好生学務課長
白倉克彦指導課長補佐
島川浩一教育部参事
書 記 伊藤祐子教育庶務課長補佐、山本裕和教育庶務課主事
傍 聴 者 13名

午後2時00分 開会

(開会宣言)

○伊藤委員長

ただいまから教育委員会8月臨時会を開催いたします。

本日は、大勢の傍聴者の方がいらっしゃっています。入口でお渡しいたしました傍聴券の裏面に注意事項が記してありますので、ご了解のうえ、傍聴中は静粛を旨とし、円滑な会議の進行にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

(署名委員)

○伊藤委員長

それでは、はじめに、会議録署名委員の指名を行います。本日の会議録署名委員でございますが、荒畑委員及び私、伊藤でございます。

(協議事項)

○伊藤委員長

それでは日程第1、協議事項を行います。

協議事項第1、平成23年度から平成26年度使用小学校教科用図書について、協議いただき

ます。

はじめに、本年度の小学校教科用図書の採択について、これまでの経緯を事務局から御報告いただきます。

○内野教育部理事

小学校教科用図書の採択について、これまでの経過を御報告いたします。

本年4月の教育委員会定例会におきまして、採択方針及び平成22年度小学校教科用図書採択要領及び同細則を定め、これに基づきまして、5月27日に、学識経験者、保護者代表、小学校長、副校長で構成される小平市立小学校教科用図書審議委員会及び同審議委員会の下部組織であります教科用図書調査委員会を設置し、委員の委嘱をいたしました。

同調査部会では、すべての教科書について、教科、種目、発行者ごとに専門的な調査研究を行い、調査資料をまとめ、同審議委員会に提出いたしました。

また、6月5日から7月12日までの間、市内6館の図書館におきまして、教科書の見本を提示し、あわせて、一般の方々を対象としたアンケートを実施し、ご意見等を寄せていただきました。

各学校におきましても、各教科書の調査研究を行い、その結果を報告書としてまとめ、同審議委員会に提出いたしました。

同審議委員会からは、これらの資料を基に、検討し、まとめたものを調査報告書として、提出していただきました。

なお、教育委員の皆様には、各学校における調査研究報告、各教科書発行者の教科書趣意書、東京都教育委員会が作成した調査研究資料、図書館で実施したアンケート、またアンケート以外にお寄せいただきました要望書、意見書等の写しをお渡ししているところでございます。

これらの資料もあわせてご参照いただき、ご協議いただきたいと思います。と存じます。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

採択する小学校教科用図書につきましては、9教科、11種類でございます。協議の手順といたしましては、本日は種目ごとに、国語、書写、社会、地図、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、保健の順に委員の皆様からご意見をいただき、種目別に採択を決定する議案に載せる教科用図書の候補を選定いたします。8月30日の教育委員会定例会では、さらに各種目の候補を1者に絞り込み、協議終了後に議案を作成し、審議する予定でございます。

それでは、小学校教科用図書の見本もそれぞれ用意されておりますので、適宜ご参照いただき、また、既に7月定例会で報告をいただいております「小平市立小学校教科用図書審議委員会報告」についても参考にご協議願います。なお、進行状況にもよりますが、協議する内容が非常に

多いですので、理科の協議に移る前に、1回休憩をとりたいと存じます。

それでは、はじめに国語について行います。なお、平成20年3月に学習指導要領が告示されました。それに伴い、国語の教科用図書の内容が新たに変更になっておりますので、学習指導要領の改訂ポイントについて、事務局より説明願います。

○内野教育部理事

それでは国語における学習指導要領の主な改訂のポイントについてでございますが、国語に限らず、どの教科におきましても言語活動の充実が明記されたことが大きな改訂のポイントでございます。

具体的には、児童が説明や発表・報告をする、記録をする、取材をする、話し合う、調べたことを新聞にまとめたり、レポートを書いたりする活動のことでございます。各教科ともこのような言語に関する活動を通して、それぞれの教科のねらいを達成することを目指しており、国語はその中心となる教科でございます。

また、伝統的な言語文化に関する指導の充実、重視が挙げられております。創造と継承を繰り返しながら形成されてきた伝統的な言語文化を小学校段階から取り上げて、親しむことをねらいとして、古文や漢文、昔話や神話・伝承、短歌や俳句、慣用句や故事成語などが扱われております。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、国語の協議に入ります。国語につきましては、発行者5者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい国語」、学校図書が「みんなと学ぶ小学校 国語」、三省堂が「小学生の国語」、教育出版が「ひろがる言葉 小学国語」、光村図書が「国語」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。どなたかご発言をお願いいたします。

○吉田委員

今回国語は5者ございますが、5者ともに先ほどのご説明があった新学習指導要領に沿った内容であると同時に、とてもいい教科書づくりをされていると思います。

その中で私は、光村、三省堂、教育出版がよろしいのではと思いましたが、この3者について意見を申し上げたいと思います。

まず光村ですが、話す・聞く・書く・読む、それぞれの領域においてバランスよく取り入れられ、それぞれの能力を高める工夫がされていると思います。国語の基礎・基本は、やはり読む・書くことから始まると思いますが、その読む・書くということに対して、光村の教科書は丁寧な指導がされていると思います。またノートづくりの指導もしっかりしていて、指導する先生方の

参考にもなるのではないのでしょうか。

審議委員会からの報告にも、光村の教科書は学習の手引きが丁寧かつ具体的で指導しやすく、児童の自発的学習も期待できる。また文学作品も児童の発達段階にあっているだけでなく、児童の心に残り、道徳的心情も育つ内容となっている、とあります。確かに学習の手引きは児童にとっても指導する先生方にとっても、とてもわかりやすく具体的に書かれていると思います。

また、読書活動を進めるために、読むことの教材の後や、「この本読もう」のコーナーで、カラー表紙で多くの本を紹介しています。小平市は、子ども読書活動推進計画を策定、実施していますので、この本の紹介は子どもたちの読書活動の参考となり、手助けになると思います。

それから、我が国の伝統や文化に対する理解や愛情といった面でも、光村は俳句、短歌はもちろんのこと、古文や漢詩、昔話の神話など、幅広く紹介されています。

もう一つこの光村の教科書は他社と比べまして、紙質がやわらかく、文字も光村が独自に開発したもので、読みやすく、親しみやすいということも採択の対象になるものと思います。

次に三省堂ですが、この教科書の特徴は二分冊構成であるということと、見開き始まりの教材構成で、教材がすべて見開き右ページから始まるようになっていきます。特に読むことの教材では、見開き単位での場面展開を重視しているので、スムーズな学習展開が期待できると思います。

また図書館指導を教科書の中に位置づけ、児童の主体的な図書館活動を促しているところもよいと思いました。

分冊の「学びを広げる」では、辞書的要素が多く、発展的な学習ができるよう工夫されています。巻末には、すべての学年で「古典の世界」と題し、昔の遊び、食事、衣装、住まいや古典文学の紹介があり、我が国の伝統や文化に対する理解と愛情が育つように配慮されています。ただ、この本は2年生から年間1冊で、多少重く、特に2年生では立って本を持ち音読するのはつらいかもしれません。

あと教育出版の教科書ですが、こちらの教科書も非常に他社に負けず劣らずのいい編集をしていると思います。特に1年生、入門期最初の教材は、あいさつから始まり、音声ゲーム中心に進められています。入学したての1年生には、国語学習の取りかかりとしまして、楽しく学べ、とてもよいことだと思います。

また学習の手引き「ここが大事」のコーナーでは、学び方がわかるように工夫され、子どもたちだけでなく先生方にも役立つものではないのでしょうか。

その中で一つ気にかかることがございました。それは何かと言いますと、文字の配列です。1年生の教科書、下巻の14ページ、ちょっと皆さんも見ただけだとわかると思うのですが、「はたらくじどうしゃ」の文章の中に5カ所、26ページの「リスのわすれもの」の中に7カ所、また2年生の教科書にもありますが、言葉とといいますか、単語の最後の一文字が次の段落になっていて、ちょっと読みづらさを感じました。ささいなことかもしれませんが、特に1年生にとりましては、スムーズな読みができにくいのではないのでしょうか。

子どもたちの言語活動の充実や、伝統的な言語文化を理解し、親しむことができる、そして読書活動の充実といったことから考えますと、最初に3者の名前を挙げましたが、私は光村が一步

リードしているのではないかというふうに思っています。

以上です。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

ほかにご意見ございますでしょうか。

○荒畑委員

私もただいま吉田委員がおっしゃったように、光村図書がよろしいのではないかというふうに思っております。細かい説明を申し上げたいと思います。

審議委員会で意見集約ということで、教科書の希望が出ております。そのポイントといたしまして、学習の手引き欄が具体的に示されている方が、教師の指導が明確になり、ねらいに沿った授業が期待できるということが挙げられております。

また、児童の発達段階に応じた教材が多く取り上げられたもの、こういった点に重点をおいてお願いをしたいという意見が出ております。

そして選ぶ場合に、キーワードといたしまして、5点ほど挙げております。一つは言語活動の充実ということで、児童が説明や発表・報告・記録・取材・話し合う、調べたことを新聞にまとめたり、レポートを書いたりすることがやりやすいもの、また先ほど吉田委員もおっしゃいましたけれども、伝統的な言語文化に関する指導を重視するということで、古文や漢文、昔話や、神話伝承、短歌や俳句、慣用句や故事成語などが扱われているものが作品として多いということが大事だと言われております。その点でも光村図書が非常に、112と、多く出ております。

また、小平市では子どもの読書活動推進計画ということで、子どもたちに読書活動を推進しております。やはり教科書で紹介している図書の点数が多いという点でも、光村図書がいいのではないかと思います。また、学習の手引きについても具体的で児童にも若手教員にもわかりやすい。

そして、小平市では光村図書は今使用している教科書なので、教員にとって作品に対するなじみもあり、指導しやすいのではないかと思います。

まとめますと、光村図書は書体が工夫されていて、大変読みやすくできております。また5、6年生は年間1冊で、中学校教科書への移行が考慮されて、1年間の学習の見通しがつけられておまして、学習の手引きが丁寧で教師は非常に指導しやすく、児童も確実に習得が期待できるのではないかと思います。また文学作品も児童の心に残り、道徳的心情も育つ内容になっており、非常によろしいのではないかと思います。

最後に、教材に季節感があり、親しみがあって、話す聞くの話題が日常的なものもたくさん取り扱っている、こういったことを総合いたしまして、私といたしましては光村図書を推薦いたしたいと思います。ほかの4者も内容的には素晴らしいと思いますけれども、今言ったような理由で光村図書を推薦いたしたいと思います。

以上です。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

吉田委員、荒畑委員より光村がよろしいというご意見が相次ぎましたが、ほかの委員の皆さんもいかがでしょうか。

○森井委員

今、吉田委員や荒畑委員がおっしゃったように、光村図書、また三省堂、教育出版の3者とも、新学習指導要領に基づき、内容が公正であり、また児童にとってわかりやすいものになっていると思いますが、私は東京書籍のものもいいと思います。

何より優しい色使いと写真がはっきりしていて、全体的に見やすいこと、また学年ごとのお勧めの本が児童に興味をもちやすいような構成になっています。単元ごとのねらいと手引きが考えをまとめる手助けとなり、巻末の学習のまとめにより、繰り返し復習することができると思います。

審議委員会の調査報告には、内容が少し緩やかだが、児童に取り組みやすいとありますが、児童の基礎・基本の確実な習得という点と児童にわかりやすいということから、私は適しているのではないかと考えました。

以上です。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

読書への導入ということで、各者よく教材を豊かにし、その読書案内もされておりますが、先達っての1月の東京都の児童生徒の学力向上を図るための調査によりますと、小平市の児童は、これは小学校5年生の調査ですが、やや都の平均を読書の時間において下回っているという傾向が出ております。

それから、国語に関して全国学力調査では、これは21年度までの調査結果ですが、やはり関心意欲ということがもう少しあってもいいのではないかというような調査結果が出ております。そういったことに対応する教科書として、今ご意見の出ましたおすすめの本が出ている東京書籍、また本の例がたくさん挙がっている光村図書、また教材豊かということで、分冊もある三省堂が、確かによろしいかと思えます。

ただ三省堂については、今回、編集趣意書によりますと新しい教科書観に立った試みを、分冊として実現したという、その意欲工夫は非常に評価できるころだと思っておりますが、実際に使うということになると、審議委員会の所見にもございますが、ある単元を学んだすぐその次の後のページに、そういったことがある方が使いやすい。分冊ですと特に低学年の場合は改めて開くということになって、使いにくいのではないかという意見も出されております。

ほぼ意見が出たかと思いますが、いかがでございましょう。

○阪本教育長

では、少し違う角度から。子どもたちの興味関心というところでは、それもやはり小平の子どもたちはもう少しというところがあると思います。国語というのはすべての教科のもとになる言語活動ということで、重要視されているわけですが、私は光村図書、東京書籍というところかなと思います。教育出版は読書活動は充実しています。ただ、何と申しますか、読みづらいといいますか、微妙なことなのですけれども、行間とか字の大きさというものが読む側にとって、特に子どもたちにとって、ずっと入っていくような本が必要だと思っております。

それからもう一つは、文学作品についての絵がありますよね。このような絵というのは、逆にプラスに作用する場合とマイナスに作用する場合とがあると思います。そこでは調査報告等もありますが、そういうものを含めると、一番いいのは私は光村かなと思っております。海のいのちの伊勢さんの絵は素晴らしいと思いますし、これは作品をマイナスにするのではなくて、逆に作品の読みを豊かにしてくれるかなと思っております。

また、東京書籍については、やはり学習の手引きにもう少し具体性が欲しいし、活用の部分が少し弱いのではないかと思っております。そういう面では光村がほかのところより少し先行しているかなと思っております。

以上でございます。

○伊藤委員長

いかがでございましょうか。

○吉田委員

今、教育長のおっしゃったことも非常に参考になるポイントだと思いますので、さらに検討していきたいというふうに考えております。

○伊藤委員長

それでは、皆様のご意見を総合いたしまして、国語の議案候補は、光村と東京書籍ということになりましょうか。よろしいですか。

－はいの声あり－

○伊藤委員長

そうしますと、東京書籍「新しい国語」、それから光村図書の「国語」を議案候補として残したいと存じます。よろしいでしょうか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

次に、書写に移ります。

書写の主な改訂ポイントについて、事務局より説明願います。

○内野教育部理事

それでは書写の主な改訂のポイントでございますけれども、手紙を書いたり、記録をとったりするなど、実際の日常生活や学習指導に役立つよう、内容や指導のあり方の改善が図られているかと思えます。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、書写の協議に入ります。書写につきましては、発行者6者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい書写」、学校図書が「みんなと学ぶ小学校書写」、三省堂が「小学生の書写」、教育出版が「小学 書写」、光村図書が「書写」、日本文教出版が「小学書写」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。どなたかご発言をお願いいたします。

○吉田委員

発言をする前に、ちょっとお尋ねしたいと思います。報告書に硬毛関連という言葉が載っておりますが、これは毛筆でやったことを硬筆でも練習する、そういう解釈でよろしいでしょうか。

○内野教育部理事

委員のご案内のとおり、毛筆での学習を硬筆でも生かし、学習し、練習をするということでございます。

○吉田委員

ありがとうございました。

それでは書写について発言させていただきます。書写も今回6者ございますが、私は光村、東京書籍、教育出版を候補に挙げたいと思います。

光村の書写は、書く姿勢、筆の持ち方、用具の使い方などの指導はもちろんのこと、ペンギンキャラクターによる吹き出しで、注意点やポイントを押さえ、とてもわかりやすいものとなっています。また、墨の濃淡使いで筆の穂先の動きや、とめ、払いの説明がされているので、筆の扱い方がわかりやすいものとなっています。また書初めの手本は他社にもございますが、書き順、

文字のバランスなど、注意する点が一目で理解できるようになっています。もう一つこの光村のよいところは、書写とといいますと硬筆より毛筆に重点を置きがちですが、この教科書は硬筆と毛筆がバランスよく扱われていると思います。

ほかには教育出版や、東京書籍の教科書もよくでき上がった教科書だと思いますが、教育出版はお手本が見開き1ページにあり、教科書を開いて縦に置かなくてはいけないので、やや使いにくいと思います。またイラストも多過ぎ、レイアウトで色を使い過ぎているので、かえって見づらくなっているようにも思います。

あと東京書籍ですが、こちらは光村と同じく、右ページには指導のポイント、左ページには手本があり、指導の流れに沿っていて、字を書くときは本を1ページ分に折って使うことができ、指導しやすい工夫がされています。ただ審議委員会の報告にもございますが、毛筆で学習したことをすぐ硬筆でも練習するという硬毛関連で、硬筆の扱いがやや少ないように感じました。

書写を採択する際は、国語教科書との連動ということが選択のポイントの一つであると言われてはいますが、国語との連動ということ抜きにしても、私は光村を押ししたいというふうに思っています。

子どもたちが硬筆でも毛筆でも書くことに興味関心を示し、正しく学べる教科書ということを考えますと、最初に挙げた3者の中では光村がよろしいのではと思っております。

以上です。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

ほかに書写に関してご意見ございますでしょうか。荒畑委員いかがですか。

○荒畑委員

私も光村図書がよろしいと思います。意見集約の中に、国語の教科書と連動した方がいいというご意見が出ております。また今、吉田委員もおっしゃいましたように、硬毛関連ということで、光村図書が大変充実していると思います。

さらに国語の教科書との関連性におきましても、児童にもなじみやすく、国語の時間における書くことの言語活動を充実させることができる点でも、光村図書がいいのではないかとこのように思っています。

○伊藤委員長

よろしいですか。

森井委員いかがですか。

○森井委員

私も今、吉田委員、荒畑委員がおっしゃったように、光村図書と東京書籍のものを押ししたいと

思います。

以上です。

○伊藤委員長

教育長、いかがでしょうか。

○阪本教育長

東京書籍と光村ですが、例えば、初めの字の導入の部分ですが、東京書籍の場合1年生は、文字が隠されていたりというのは、ちょっと私は必要ないかと思います。そして、その後名前を書いたりとか。そして次に文字を書く、字を書く姿勢という、そこは光村は初めにストレートに姿勢から入っています。これは文字を書くという、文字を大切に扱う、文字に対してちゃんと尊敬の念を持って取り組むという意味では、とても大切かと思います。そしてそれが、光村では繰り返されているというのは、これはいろんな書写だけではなくて、ほかの授業も含めて必要なことだと思います。

その次には、やはり文字というのは正しく書くということと、それからその美しさといいますか、自分なりの個性のある字を工夫するというのも大切かと思うのですが、そういう面では光村の方が空に大きく腕を動かして自分で書いてみようなど、自分なりの創意工夫、創作にもつながると思います。東京書籍の方はなぞりが小さい、小さくなぞらせているという意味では、興味関心、これから取り組もうという意欲づけには、ちょっと課題があるかと思います。

あとは光村の方は毛筆になりますと薄墨で穂先の流れであるとか、力の入れぐあいであるとかというのはわかりやすく、自分でもそばに置いて練習ができるということです。

それから活用の部分は、やはり光村の方がすぐれているかと思っております。そういう面では光村が一步リードしているかと思っております。

以上です。

○伊藤委員長

審議委員会からのご意見では、東京書籍が硬毛関連での硬筆の扱いがやや少ないように思われるという所見も出ております。

それから今の教育長のご発言で、指導のしやすさということからも、なぞり方など考えようにもよりますが、私も皆さんのご意見のとおり光村図書がいいのではないかと思います、いかがでしょう。書写は。光村で。

－光村でいいという声あり－

○伊藤委員長

よろしいでしょうか。

それでは、皆様のご意見から書写につきましては、発行者「光村図書出版」、図書名「書写」が妥当かと思えます。よろしいでしょうか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

次に、社会に移ります。

社会の主な改訂ポイントについて、事務局より説明願います。

○内野教育部理事

社会に関する改訂の主なポイントでございますが、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことが重視されております。

具体的には、縄文土器が使われていたころの人々の暮らしに関する内容が加えられたことや、代表的な文化遺産が例示されるようになったことなどが挙げられております。

また、課題を設定し解決していくといった、問題解決学習を推進することや、伝統や文化に関する学習を重視することなどが挙げられております。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、社会の協議に入ります。社会につきましては、発行者5者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい社会」、教育出版が「小学社会」、光村図書が「社会」、日本文教出版が「小学社会」、同じく、日本文教出版で「小学生の社会」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思えます。どなたかご発言をお願いいたします。

○森井委員

ただいまの事務局の説明から、社会では問題解決的な学習が重視されるということを踏まえて、児童が基礎的、基本的な技術を身につけられるように、学び方をわかりやすく示していることに重点を置いて、各者の教科書を見させていただきました。その上で私としては、東京書籍、教育出版、光村図書に絞りたいと思えます。

まず東京書籍は、学び方コーナーや「つかむ・調べる・まとめる・生かす」で、学習段階が示されていて、問題解決的な学習が進みやすい構成になっています。また、学習のまとめが單元ごとに設定されていることから、児童の基礎基本の習得を図るのに役立つと思えました。また歴史が扱われる6学年では單元ごとの年表により、流れがつかみやすく、巻末の年表も大変見やすいと思えました。どの学年においても、折り込みページが扱いやすく、すっきり収納できるのもよ

いと考えました。

教育出版では、各学年とも最初に学び方の手引きや、教科書の使い方が詳しくまとめられているので、児童にとってわかりやすいのはもちろん、先生方にも見通しを持って学習に当たることができると思います。3、4学年の「わくわく社会科ガイド」や、5学年の「社会科の学びかたやってみよう」についても、調べ学習の手だてがわかりやすくまとめてあると思います。全体的に絵や写真が大きく見やすいことや、歴史上取り上げなければならない人物についての肖像画や写真、生没の明記などもわかりやすくてよいと思いました。ただ、こちらの会社の折り込みページは収納しづらいという難点もありました。

光村図書では、学習の仕方が最初に明確に示されているので、学習が進めやすいと感じましたが、吹き出し部分が多く、また1ページの内容が少し多過ぎるように感じました。ページの右下のコメントや、キャラクターの吹き出しが児童の興味や関心を次につなげる助けになると思いました。「私のノート」というコーナーでは、調べたり考えたりすることのまとめ方が載っており、個々に学習を進めていく上で役に立つと思います。5学年から合冊になるということで、高学年ではほかの科目との兼ね合いもあり、児童への負担はどうかと思う部分もあります。

以上ですが、私の中では、この3者の中では今のところ一つには絞りにくいという状況ですので、皆様のご意見や、審議委員会からの報告を参考に、再度検討できればと思っています。以上です。

○伊藤委員長

それでは3者出ましたが、ほかの委員の方いかがでしょうか。

○阪本教育長

私は教育出版と東京書籍で見比べて、両方ともいいのですが、教育出版の方がすっきりしています。東京書籍は、例えば、情報が多いといいますか、縄文時代の生活の様子が見開き4ページで横に長いのですが、ちょっと量的に多過ぎたり、長篠の戦いの屏風絵も2ページにわたってということになってきますと、単元のねらい自体がちょっとぼやけてしまうのではないかと思います。私のような大人にとってはそういうのは興味関心があってよろしいのですが、子どもたちにとって学びの場ではどうかと思いました。

そういう面では、教育出版が先ほどいった、すっきり構成がされていて、今東京でも小学校の場合若い教員が多いので使いやすい、活用しやすいというようなことがあると思います。それから、教育出版の方はフードマイレージという、新しいというわけではないでしょうけれども、そういうこれからの社会をどうつくっていくかという部分でのものが入っているのは、目新しいと思いました。ちょっと難点といえば、昔の洗濯をたらいでやっているところがあるのですけれども、指導する先生がやったことがないので、それはどうかかと思ったりはしました。小平でいいますと、農業との関連も3・4年生で取り上げてありますし、身近な教材として生かせるのかなど。そういう面では、教育出版が少しだけいいのかなと思っています。

○伊藤委員長

今、阪本教育長から東京書籍と教育出版を比べて、教育出版が見た感じがすっきりしているというご意見がありました。それに関連しまして、私もちょうどこの中からは、やはり先ほど森井委員がおっしゃったような理由から、東京書籍、教育出版がよろしいのではないかと思います。その中で2者を比べた場合、非常にわかりやすく示している、例えば、これは東京書籍6年下の方ですが、税金の働きの図が出ております。東京書籍はこのような感じになっております。こちらの。それに対しまして、教育出版の方は、こちら、このような図になっていて、それぞれ感じるところは違うかもしれませんが、イラストの種類がちょっと違うのでしょうか、この方がすっきりした見やすいものになっているのではないかと思います。

それから6年下では、東京書籍では「世界の中の日本」、教育出版では「日本と世界のつながり」という単元がございますが、内容はどちらもよろしいのですが、より教育出版の方がつながりというキーワードでお隣の国、韓国やそれから中国、アメリカのことを述べているということからして、今の時代を生きる子どもたちにより学びやすいのではないかとこのことを思いました。

それから、その「世界の中の日本」、「日本と世界のつながり」の中で、国旗、国歌についてのページがあります。東京書籍はこのページになっております。それから教育出版がこちらのページです。内容はもちろん検定を通過しております、問題なくわかりやすい内容ですが、両者比べたときに、教育出版の方が非常に明快でわかりやすくなっております。また、国旗国歌法が定められた1999年、平成11年ということも明記されておまして、これは子どもたちが理解しやすいのではないかと感じました。

ほかにご意見ございますでしょうか。

○吉田委員

重複するとは思いますが、私も教育出版がいいなと感じました。歴史を学ぶ上で、国家や社会に大きな働きをした先人を非常に多く取り上げ、人物を通して歴史、文化、伝統を学ぶといった、そういうことは非常に大事なことだと思います。各者比べてみました場合に、教育出版が一番取り扱いが多く感じられました。これも重要なポイントではないかなというふうに思います。

○伊藤委員長

荒畑委員、いかがでしょうか。

○荒畑委員

私はもう一点、児童の思考力を高める工夫という点で、ワーク方式を取り入れられているというのがよろしいと思います。そして、教科書を使って学習に主体的に児童がかかわることができるような工夫が、教育出版にはされているということで、私も教育出版がいいのではないかなと

いうふうに思います。

それとあと、吉田委員が今おっしゃいましたように、国家社会の発展に大きな働きをした先人を取り上げている人数が非常に多いということは、いい教科書だなと印象づけられました。

以上です。

○伊藤委員長

先ほど森井委員から3者で迷っているというご発言がありましたが、今の一連のご意見を聞いていかがでしょうか。

○森井委員

皆さんのご意見を参考にしたところで、東京書籍と教育出版がいいのではないかと思います。再度検討させていただいてもよろしいでしょうか。

○伊藤委員長

それでは社会につきましては、審議委員会の、例えば、教育出版のところにある、「若手教員に活用しやすい」こういったところも参考にしながら、2者、さらに検討を進めてまいりたいと思います。

社会につきましては、発行者名、東京書籍「新しい社会」、それから教育出版「小学社会」を議案候補として、よりこれから検討したいと存じます。よろしいでしょうか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

次に、地図に移ります。

地図の主な改訂ポイントについて、事務局より説明願います。

○内野教育部理事

地図に関する改訂の主なポイントでございますが、47都道府県の名称や位置、また世界の主な大陸や海洋、そして主な国の名称と位置などを調べる学習が新たに加えられております。そのことで、地図帳や地球儀の活用などが一層重視されております。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、地図の協議に入ります。地図につきましては、発行者2者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい社会科地図」、帝国書院が「楽しく学

ぶ 小学生の地図帳4・5・6年 最新版」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。ご発言をお願いいたします。

○森井委員

私は両者見させていただきまして、帝国書院のものが色使いが鮮明で見やすいと思いました。また地図帳の使い方や、まとめ方がとても丁寧に説明されているので、活用するための手がかかりになると思いました。地図としてシンプルなつくりになっていますので、都道府県の位置関係もわかりやすく、日本とその周りのページでは、アジア諸国との位置関係もわかりやすいという点からも、全体的にバランスがよいと感じました。

以上です。

○伊藤委員長

他の皆様、いかがでしょうか。

○吉田委員

私も森井委員と同じく、帝国書院がよろしいかと思えます。やはり地図というのは、見やすいということがまず第一だと思うのですね。それで、その二つの教科書を同時にぱっと開いたところ、やはり帝国書院の方が色使いがはっきりしていて、見やすいものとなっていました。

それと、帝国書院の地図は私たちが住んでいる東京都を見開きの大きな地図で表して、東京都の学習をする上でも使いやすいように工夫されています。

また、地球の温暖化にも触れ、世界で起きているさまざまな現象の写真や、二酸化炭素の排出国をグラフで表したりして、温暖化防止への取り組みを考えさせる工夫もあると思います。

以上のようなことで、私は帝国書院がよろしいと思えます。

○伊藤委員長

ほかにいかがでございますか。

○荒畑委員

今、お二人がおっしゃったとおり、私も帝国書院がいいのではないかと思います。今、お二人が申し上げておりませんでしたけれども、全体の位置関係がつかみやすく、多方面に活用できる地図となっております。学年に関係なく長期間にわたって活用できるというところがすばらしいと思います。

また、鳥瞰的なので、都道府県の位置が非常に一目で把握しやすいということがよろしいと思います。あとは色が落ちついて非常に調べやすいということは同じです。

以上です。

○伊藤委員長

私も皆さんと全く同意見で、見やすい、それから全体の中での日本、あるいは都道府県がよくわかるということから帝国書院がすぐれていると思いますが、教育長、いかがでございますか。

○阪本教育長

私も同じようなところですが、世界の中の日本といいますか、世界に貢献する日本というものを、子どもたちが小さいうちから意識し、また学ぶということは大切だと思います。また地球儀という物の見方も載っておりますし、また見やすいというのも私は大きなことだと思います。そういう面では帝国書院がいいかと思います。

○伊藤委員長

皆様のご意見が出揃い、一致したようでございますので、地図につきましては、発行者名、帝国書院、図書名「楽しく学ぶ 小学生の地図帳4・5・6年 最新版」を議案候補といたしたいと存じます。よろしいでしょうか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

次に、算数に移ります。

算数の主な改訂ポイントについて、事務局より説明願います。

○内野教育部理事

算数に関する改訂の主なポイントでございますが、学習内容の一部を重複させる反復学習と、算数的活動の充実を通して、知識・技能の確実な定着や、思考力や判断力、表現力を育成していくことが重視されております。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、算数の協議に入ります。算数につきましては、発行者6者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい算数」、大日本図書が「たのしい数学」、学校図書が「みんなと学ぶ 小学校算数」、教育出版が「小学算数」、新興出版社啓林館が「わくわく 算数」、日本文教出版が「小学算数」となっております。

それでは皆様のご意見を伺いたいと思いますが、算数につきましては小平市では既に習熟度、あるいは少人数指導が定着期に入っておりますので、そういったことに対応し指導しやすいという観点で選ぶことが大切かと思っております。

また、全国学力調査、あるいは先ほどの東京都の調査等から、特に劣っているということではございませんが、少々課題として定着させたい、より力をつけてあげたいというのは、やはり表現処理、それから図形に関するところというように調査結果から伺っておりますし、私自身もそのように認識しております。

そういった観点で、私は大日本図書、教育出版、東京書籍、そのあたりが候補として挙げられるのではないかとこのように思っておりますが、委員の皆様からどうぞご意見をお出しいただきたいと思っております。

○森井委員

どの教科書も大変よくできていると感じました。中でも私がよいと感じたのは、東京書籍と教育出版です。

東京書籍は2本の数直線を使うことによって、児童にとってわかりやすく理解が深まるような形をとっていると思います。また巻頭に教科書の使い方や学習の手順が載っていることで、学習の進め方がとてもわかりやすく、巻末の応用、発展問題では児童の習熟度に合わせた指導に役立つと思われました。

教育出版は全体的にとってもはっきりして見やすいという印象を受けました。こちらもノート書き方が記されていたり、巻末の学びの手引きで児童の学習を進める上でのヒントになると思います。

どちらの教科書も、学習したことを確実に児童に定着させるための工夫が感じられました。

以上です。

○伊藤委員長

ほかにいかがでしょうか。

○吉田委員

今、伊藤委員長から大日本、東京書籍、教育出版というお話で、森井委員は東京書籍、教育出版がよろしいのではというお話がございました。そこで私はそれ以外には啓林館もよろしいのではないかと思います。

巻頭の教科書の使い方ガイドや、学習の進め方が掲載されていて、問題解決学習の流れを説明したものになっております。児童が授業の見通しをもって学習ができると思います。また各単元に入る前に準備運動というものを設置し、これは既習事項の問題集で児童が理解できているかどうかを確認できる仕組みになっています。これにより児童のつまづきが早く発見され、その対応をすることにより、新しい単元にスムーズに入っていけるような工夫がされていると思います。

また、この教科書のよいところは5年生での面積の指導が三角形から入っているということだと思います。他者はすべて平行四辺形から入っているようです。

審議委員会の報告の中に、専門性が高く、導入や展開の工夫に独自性はあるが、児童にはやや

難しいのではとございましたが、私はこの専門性という言葉をお大切にしたいと思います。全国学力テストの結果等を拝見しましても、基礎的学力はついてきていますが、算数的な考え方や、それを活用する力が不足していると思われます。ですから、専門性のある啓林館の教科書もよろしいのではないかと考えております。

先ほど児童には難しいのではとありましたが、こちらの教科書も習熟度別、あるいは少人数指導にも対応していると思っております。

以上です。

○伊藤委員長

今のご意見に対して、同感のご意見、あるいはほかのご意見、がございましたら。

今、平行四辺形の面積、図形のことがありましたが、それをちょっと私も見てみましたら、今たまたま挙がっております、例えば、大日本図書ですと、このように四角形で面積を求めるやり方で出ております。それから、教育出版もこのように。こちらはただ両方できる、三角形、四角形両方できるように選べるような感じになっております。それから、東京書籍はこのように始まりまして、こういった四角形からという説明がなされていて、ページ数も比較的多く割かれております。

それに対しまして、今、ご発言がありましたけれども、啓林館は、平行四辺形の面積については、三角形に分けてそこから出すということです。ここにありますが、「三角形の面積を求める公式は習っている、それから対角線で分けた二つの三角形は合同なので、(合同は5年生の上で習っていたのですね) 2倍すればいいので、簡単に平行四辺形の面積が求められると思いました」という、このイラストがあるわけですが、比較的三角形から求める四角形から求めるという、そのやり方云々以前にちょっとページ数が少ないようにも感じられます。

それから、専門性の大切さもおっしゃいましたが、やはり基礎基本の定着、習得定着ということからしますと、子どもたちのなじみとして四角形からの方が理解しやすいというように思います。

ほかにもございませんか。荒畑委員いかがでしょうか。

○荒畑委員

私は吉田委員の意見と同じなのですが、東京書籍か啓林館がいいのではないかと思いました。ただいま申し上げておりましたように、5年生の図形の面積を求める問題の場合に、三角形から入るのが啓林館だけなのですが、非常にわかりやすいという印象がありました。

それともう一つは、先ほどもおっしゃってございましたけれども、全国学力テストの分析と対応ということで、基礎的な知識、機能の習得の場合に、それを考えられている、力を入れているという点で、啓林館がいいのではないかなというふうに思っております。

以上です。

○阪本教育長

私は東京書籍、教育出版ということです。

啓林館は数直線ではなくて線分図といいますか、ほかのところとは違うということですね。そういう面では、先ほどの専門性という言葉がありますが、見てみますと学力テストの上位の子どもには適していますが、中位とか下位の子どもには難しいといいますか、そういう面では小平市の全体の学力を高めるという面で、やや課題があるかなと思います。

それから東京書籍の場合は、ノートのとり方、これはとても大切だと思いますが、表現力と言ってもいいと思いますが、小学校できちんとそういうノートのとり方を身につけさせますと、中学校に行ってもそれが非常に効果的に機能し、それから学習規律も含めた学習の取り組みがうまくいっているというケースもあります。

それから、教育出版はこれもなかなかいいと思うのですが、体積の定義や容積の定義が小さくしか目立たないというようなことがあります。

そういう面では、全体的に東京書籍の方が計算のパターン化もきめ細かく載っているなというようなことから、東京書籍かと。それから若い先生といいますか、先生方の研修などでいいですと、これは東京書籍を採用している市町村が非常に多いのですが、その辺では教員の人事異動があっても割りとスムーズに取り組める、また研究のチャンスも多数あるのではないかなと思います。やや東京書籍がいいというような感じを持っております。

以上でございます。

○伊藤委員長

今、教育長の方から数直線に関するご発言がありました。私もその点で見ましたし、それから各学校現場の先生方のご意見もこのようにいただいております。それから審議委員会のご意見にも、その数直線のことが出ておりました。啓林館は数直線が少ないので、演算決定に関する指導が難しいということが出ております。

それは、例えば、二けたを割る、一けたで割るというのが4年生の上で出てきます。東京書籍の教科書を見てみますとその場合に、このときはまだ数直線ではなくてもいいような段階なのですけれども、既にここで数直線に表しているのがわかります。数直線のことと申しますと、この後に倍の数の、この割り算のすぐ後に、この単元の後に倍の計算というのが各者出ています。出ていないところもありますが、ほとんどが出ております。ここで割り算の後に倍の計算をして、例えば、「親のくじらの体長は15メートルで子どものくじらの体長は3メートルです。親のくじらの体長は子どものくじらの体長の何倍ですか」というのも、こういった数直線で表してあります。これは5年の下で倍の割合が出てきます。その為のある種、助走、準備だと思っております。ですからここでしっかり理解を定着させることが非常に大事になってくるかと思っております。

その点におきまして、啓林館は割り算の後の倍のところ「テレビ塔の高さは90メートルで、これはデパートの高さの3倍です。デパートの高さは学校の高さの2倍です。学校の高さは何メートルですか」とあるわけです。それが数直線ではなく矢印です。学校の2倍がデパート。デパー

トの3倍がテレビ塔。そして全体では学校の何倍がテレビ塔だろうという、こういった表し方になっております。全部問題はそういった2段階になっていて、少々難しいのではないかという印象を受けました。この助走準備の段階でわからないまま進むということは、児童にとって非常にデメリットになるのではないかという印象を受けます。

この次に、これが5年の下にきて、割合の学習になったときに、啓林館はやはりそのまま矢印になっております。この同じテレビ塔の問題が出ております。こういった感じで進んでいきます。それに対しまして、今、東京書籍だけを比べているわけですが、東京書籍の場合、割合は、このような数直線で表されております。これは児童にとって今何を求められているかということを整理するのに非常に助けとなる方法で、これによって立式していくという習慣をつけることが力になると思いますし、これを頭の中に描けるというようになるというのが中学、高校と進んでいく数学の一つの基礎にもなるのではないかと思います。ここが非常に違う点であり、現場の先生方からもそういった声が資料に非常によく出ております。

それから、ちょっと少々時間がかかって恐縮ですが、割り算のところで、72割る3というのが各者共通して出ているのですが、その示し方が、こちらは東京書籍でこのようになっております。しかし答えを出してしまっている教科書があるのです。例えば、2を立てて3と2をかけると6というふうに答えを出してしまっているものも結構あります。啓林館はこのように横にしていて、ここも少し答えを1とかゼロとか出しています。そういった違いがあります。

それが審議会委員のご意見にも所見にも出てきていることに、つながっているのではないかと思います。

あと発展問題ですが、先ほど大日本図書を挙げましたが、これは発展問題がやや少ないという点で習熟度別授業に使うのに少々難があるかなという気もいたします。

審議委員会からの意見集約では、「児童が主体となって学習を進めることができるもの、解決方法が必要以上に細かく丁寧に記されることなく、児童にとって使いやすいもの」というご意見が出ております。そういったことも検討課題かと思いますが、はっきり申し上げまして、児童に難しいものが、児童が主体的に学んでいくときに、また若手教員が指導していくときにどうだろうという疑問も抱かざるを得ないところです。

いかがですか。皆さんご意見を出していただいたところですが、もう一回ご発言があるようでしたら伺います。

そうしますと、議案候補として、いかがいたしましょうか。3者を残すという形にいたしますか。ご意見が複数ということで、もう少し3者でといたしますか、教育出版を検討しましょうか。教育長からも教育出版が出ていますよね。

○阪本教育長

はい。

○伊藤委員長

では、その3者を残すということにいたしましょうか。

○吉田委員

そうですね。東京書籍と教育出版と啓林館との3者で、またさらに検討をしたらいかがでしょうか。

○伊藤委員長

荒畑委員もよろしいですか。

○荒畑委員

はい。

○伊藤委員長

それでは、皆様のご意見から、算数につきましては、発行者名、東京書籍、図書名「新しい算数」と、発行者名、教育出版、図書名「小学算数」、それから発行者名、新興出版社啓林館、図書名「わくわく算数」、この3者のものを議案候補とします。いかがでしょうか。よろしいですか。

－了解の意思表示あり－

○伊藤委員長

次は、理科でございますが、冒頭に申し上げましたように、ここで休憩をとりたいと存じます。ただいま15時8分でございますので、15時30分まで休憩といたします。

午後3時08分 休憩

午後3時30分 再開

○伊藤委員長

それでは休憩前に引き続き、理科から協議を再開いたします。

理科の主な改訂ポイントについて、事務局より説明願います。

○内野教育部理事

理科に関する主な改訂のポイントについてご説明いたします。この度の学習指導要領の改訂では、理数教育の充実が大きな改訂のポイントの一つでございます。理科におきましては観察・実験やレポートの作成、論述、自然体験に必要な時間を十分確保するために授業時数を増やしております。

また、この増加した時間の活用につきましては、理科では科学的な思考力、表現力の育成を図ることも重要であるとされております。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、理科の協議に入ります。理科につきましては、発行者5者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい理科」、大日本図書が「たのしい理科」、学校図書が「みんなと学ぶ 小学校理科」、教育出版が「地球となかよし小学理科」、新興出版社啓林館が「わくわく理科」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。どなたかご発言をお願いいたします。

○荒畑委員

それでは理科についてお話をさせていただきます。結論を言いますと、大日本図書を私といたしましては推薦いたしたいと思っております。

審議委員会の意向といたしまして、科学的な思考力を高めるために多様な絵やグラフ、図などを掲載して、児童の発達段階に沿うものをお願いしたいという意向でございます。

またポイントといたしましては、理科の実験等の安全について、また絵・グラフ・図は子どもたちの読み取りやすいものを。さらに資料、写真が載っている方がよいのではないかと。また、実験の結果をすべて書くのではなくて、子どもの思考力を高めるために、やはり子どもにそういった積極性を持たせる努力も必要なのではないか。そういったことが審議委員会の意向としてございます。

キーワードといたしましては、先ほど理事がおっしゃいましたように、科学的な思考力、表現力の育成がどうなのか。また実験の安全面についての配慮があるのかどうか。また実験の手順やまとめ方はどうなのか。そういったもろもろのことをキーワードといたしまして、検討いたしました。

その中で学習過程の工夫につきましては、大日本図書、教育出版、啓林館が非常に丁寧でございますけれども、その中でも大日本図書の活用力を意識したまとめ方がすぐれているのではないかと思います。

また、実験機器の扱い、実験の仕方などがわかりやすく丁寧に記載されているのは、東京書籍、大日本図書、学校図書でございますが、特に大日本図書につきましてはノートでのまとめ方が丁寧に取り扱われております。

このような状況から、大日本図書「たのしい理科」を推薦する理由といたしまして申し上げたいと思います。理科の学習過程がしっかり示されており、どの単元にも流れが共通していること。また、結果のまとめ方の例示がよくて、ノートのまとめの仕方が丁寧に示されていて、わかりやすい。さらには植物、昆虫の成長の過程がとらえやすいようにページが構成され、大変見やすく

なっております。また、各学年の発達段階に応じた内容になっていると思います。

それから、これは1年間の見通しが持ちにくいということですが、分冊で軽くて大変持ち運びが便利だということも利点になっていると思います。

最後に単元末の振り返りの問題がよく、習得したことを活用力を発揮して深められております。まとめの仕方の苦手な先生にとっては、大変使いやすい教科書なのではないかと思います。何よりも子どもさんが興味を示して、一生懸命意欲的になってくれるような教科書がいいのではないかと、大日本図書を推薦いたしたいと思います。

以上です。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

ほかにご意見いかがでございましょうか。大日本図書というご意見が出ました。

○森井委員

私も大日本図書がいいと思いました。理由は荒畑委員のおっしゃいましたものと重複いたしますが、審議委員会からの調査報告書にも年間計画の配列や構成がよく、各学年の発達段階に応じた内容であると書かれています。また巻頭の理科の学び方では、学習の取り組み方や進め方がわかりやすく説明されていることや、挿絵が優しい色合いのこともよいと感じました。

何よりノートのまとめ方について丁寧にわかりやすく記載されていることで、児童の理解が深まり、児童が理科を好きになる手助けになるのではと考えました。

以上です。

○伊藤委員長

森井委員からも大日本図書というご意見が出ております。ほかはいかがでございましょうか。

○吉田委員

私も大日本図書がとてもいいつくりの教科書だというふうに思います。ただもう一つ、啓林館もよろしいのではと思っています。

啓林館の教科書ですが、まず手にとって見るとよくわかると思います。上下巻の合冊であるにもかかわらず、とても軽く仕上がっております。また表紙の写真が鮮明であるとともに、有名な生物学者レイチェル・カーソンや、野口英世の写真も掲載され、理科の専門性があふれる魅力的な表紙だと思います。さらには裏表紙に保護者に向けて各学年での理科学習の概要を記載し、保護者にも関心を持ってもらえるように工夫がされています。

それから理科といえば実験ですが、これはもう先ほど荒畑委員や森井委員のおっしゃったように、実験の方法がきちんと順序立てて説明されているかどうか、あるいは安全性はどうかと、そういうことが大切なことだと思いますが、やはり啓林館もこれはしっかりとポイントを押さえ

ていると思います。

また安全性という面では、5年生で「溶け方の違い」という単元があります。食塩やミョウバンを使っての実験がほとんどですが、東京書籍と大日本図書ではホウ酸も使った実験もしています。ホウ酸は毒性があるものとして問題があるというので、たしか前回の教科書採択の際にも話題には挙がったことを記憶しております。さらに今年5月には、近隣の小学校で、実験中にビンが破裂して児童がけがをしたという報道がございました。やはり理科実験につきましては、ますますの安全性が要求されるとともに、実験を安全に行える教科書での記述が重要であるというふうに思います。

また、今回障害の有無にかかわらず、すべての児童生徒にとって使いやすいレイアウト、適切な配慮が要求されています。カラーユニバーサルデザインのことです。このカラーユニバーサルデザインも、啓林館と大日本は対応しております。

審議委員会の報告によりますと大日本が特色をよくとらえている教科書であると思いますが、分冊でちょっと大きさが大きいのではないかとか、あるいは先ほど述べました実験でホウ酸を使うといったようなことが、多少気にかかる点ではございます。

啓林館に対しましては、文字が多い、分量が多い、専門書並みの情報量でわかりにくいという言葉も入っております。ただ今回の教科書改善では、質、量ともに充実した教科書、内容が充実し、児童生徒の学ぶ意欲を高め、理解を深めることに資する教科書が必要とありますので、教科書の分量が増える分は仕方ないのではないかとこのふうにも思っております。

ただ、理科が専科でない先生も小平市では多くおりますので、その点を考えますと、ちょっと難しいという声が挙がってくるかもしれません。

以上のようなことで、この二つ、大日本図書と啓林館を候補に挙げたいと思います。

○伊藤委員長

ただいま専科の教員のお話が出ましたが、小平市ではお聞きしたところ、19校中4校に専科の先生がいらっしゃいます。ですから、あと15校は専科でない先生が理科を教えるということになりますので、私たちもその辺を十分考えなくてはいけないと思います。

それから、安全面のことで、ミョウバン、ホウ酸のことが出ましたが、その折に西東京市の事故の件が出ました。芝久保小学校で過酸化水素水の希釈を間違えたということですが、結局、実験では薬品はほとんど希釈して使いますので、その希釈を間違えるということが一番危険なのだと思います。ですから、理科の準備を教諭がいかにかんちんでできるかということにかかってきているかとも思います。

続けて、では私の意見を申し上げますと、吉田委員がおっしゃるとおり、啓林館が大人が見て非常に、人物が出ていたりとか、魅力的な部分があります。ただ、委員もおっしゃっていましたが、それからほかの委員の指摘もあったのでしょうか、少々難しい。残念なことに、この先ほど来申し上げた審議委員会からの調査報告書では、全種目を通じてこの理科の啓林館の教科書が一番、「わかりづらい」という意見が非常に多いわけなのですね。

この審議委員会はまず下部組織として調査部会があり、そこには校長、副校長、主幹、主任、教諭たち、各種目9名ほどずつ調査・研究に当たり、それを受けて審議委員会、学識経験者を含めた審議委員会が検討して、この意見を出しているわけです。先日、23日に報告式が行われまして、私どももこれを重く受けとめながら、採択に当たろうとしているわけでございます。専科の少ない中で現場の先生方が指導しやすいものを選ぶということが、そのときご意見としてもあったように伺っております。また、児童の発達段階に沿うものというご意見もありました。

そういうことから考えますと、やはり大日本図書が大変指導しやすいのではないかと思います。例えば、今審議委員会の資料を出しましたが、その中に「巻頭の学び方が学年ごとの指導要領のねらいに基づいて、とてもわかりやすい。」とあります。これは指導のやりやすさにも通じることかと思えます。

それから、抽象的な感想になりますが、全部の教科書を拝見したときに、私は大日本図書の理科がとても楽しいものだなと感じました。閉じてみましたら、表紙に「たのしい理科」とあったのですけれども。こういったことも理科離れが叫ばれて久しいですけれども、子どもたちに必要なことかと思えます。

私が楽しいと感じたのは非常に抽象的ですので、ではどうしてだろうということが、このちょうど審議委員会の資料をその後いただきまして、わかったような気がします。「ノートを上手にまとめたくなるようなノートのまとめ方が記されている」とか、「生活の関連をもとにして設問をつくっている」それから、「非常にわかりやすく表記がある。」それから「習得したことを活用力を発揮して深めることができる。」こういったご意見が出ておりまして、これが楽しさに通じるのではないかなというふうに思いました。

ちょっと長くなって恐縮ですが、具体的なところを示したいと思いますが、楽しさやら、わかりやすさということで、たった1カ所示だけでございますが、振り子の勉強が5年の後半であります。大日本図書「振り子の動き」となっていますね。啓林館は「振り子の決まり」となっています。物理的なセンスを習得すること、これが導入であり、このページで示されていて、あとは「学習をまとめよう」、これもこれでよろしいのですが、ちょっと手書きの文字が入ってくるのも、ある意味見にくいのではないかなと思います。

一方、大日本図書の方ですが、「振り子の決まり」ではなく、まず「動き」として始まります。振り子の動く様子から始まりまして、非常に詳しく授業時数の限りもありますが、わかりやすいように言葉を尽くしているという感じがいたします。ページ数も多いと思います。そのページを割けるというの、分冊になっているという利点からでもあると思います。そして丁寧に習得をさせた後に、ガリレオのことが出てきます。こういった興味関心の喚起ということからも、よくできているのではないかな、愛着の持てる教科書ではないかなと思います。

そういったところでございますが、ほかにいかがでしょうか。

○吉田委員

一つお伺いしてもよろしいでしょうか。現在使われているのは啓林館の理科の教科書ですよ。

それで、今、委員長からお話でしたが、ほとんどの項目でわかりづらい見づらいということが挙がってきているということは、やはり今使っている教科書に対しての感じもそのような感じを持っておられるのかという気がするのですが、理事これはいかがでしょうか。

○内野教育部理事

審議委員会からの報告はあくまでも新しい検定本に関する評価でございまして、現行の教科書についての評価なり所見というものは入っておりません。そのようにご理解いただきたいと思えます。

○吉田委員

わかりました。

○伊藤委員長

よろしいですか。

○阪本教育長

私は少し違う角度から。学校教育法で学力の三つの要素ということで、はっきり示されてたわけです。一つ目は基礎的な知識をしっかり身につけさせること。二つ目は知識技能を活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力をはぐくむこと。三つ目は主体的に学習に取り組む意欲を養うことということを見ますと、私は大日本図書の編集が新しい学力の流れにしっかり沿っていると思えますし、また、問題解決型の学習を展開されていると思えます。

そして学び方を学ぶといいますが、身につけさせるという、繰り返し各学年で定着させているなどと思えますし、理科における一番大切な実験も後ろにわかりやすく丁寧に示してあって、楽しく実験ができると。そしてそれをまた自分の生活に活用したりという場面が、意図的に設けられているなどと思えます。

ノートのとり方も学び方を学ぶということの一つだと思えますが、自由研究についても丁寧に示されているのがいいと思えますし、また紙面がゆとりがあると思えます。ゆとり、そしてその写真が極めて私は美しくていい写真を使っていると思えます。これはほかの会社にならばらしいものだと私は思っているのです。そういう面では見やすいし、引きつけるといえますか、そういうものがあると思えますので、私は大日本図書を推薦いたします。

もう一つ、安全配慮ですが、これについては各者とも本当に非常に重要視してやっておりますので、大日本図書も安全配慮については適切であると私は思っております。

以上です。

○伊藤委員長

ただいまご意見を皆様伺ったところでは、私を含めまして大日本図書というご意見が多いよ

うに思うのですが。吉田委員、先ほど、啓林館がわかりづらいと現在出ているけれども、それは今までのに対する感じも・・・といったことをお聞きになってましたが、今回のに対する審議委員会のご意見で何か。

○吉田委員

いえ、やはりそういう先入観というものが少しあるのかなという感じがしたもので、理事にお伺いいただけでございます。

○伊藤委員長

そうですね。いかがいたしましょうか。議案候補としては。

○吉田委員

今のお話でいきますと、大日本が4名で、啓林館は私だけの状況でございます。ですから、大日本でよろしいのではないですか。

○伊藤委員長

吉田委員からそのようなご意見が出ました。

それでは委員の皆様のご意見からということで、理科につきましては、発行者名、大日本図書、図書名「たのしい理科」を議案候補といたしたいと存じます。いかがでしょうか。

ー了承の意思表示ありー

○伊藤委員長

次に、生活に移ります。

生活の主な改訂ポイントについて、事務局より説明をお願いします。

○内野教育部理事

生活に関する改訂のポイントについてご説明いたします。

生活科の学習ではさまざまな体験活動を通して、児童の「気づき」を大切にしている指導が求められております。

今回の改訂では、体験活動が体験だけで終わることなく、児童の「気づき」を質的に高める指導の充実を図ることがポイントとなっております。

指導内容については、自分の特徴や可能性に気づき、自らの成長について認識を深めることが重視されております。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、生活の協議に入ります。生活につきましても、発行者7者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「あたらしい せいかつ」、大日本図書が「たのしい せいかつ」、学校図書が「みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ」、教育出版が「せいかつ」、光村図書が「せいかつ」、新興出版社啓林館が「わくわく せいかつ、せいかつ めいじんブック、いきいきせいかつ」、日本文教出版が「わたしとせいかつ」となっております。

7者と多くございますが、それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。どなたかご発言をお願いいたします。

○吉田委員

やはり7者ということで、この中から選ぶというのは非常に悩みました。それでもその中から3者を選び、東京書籍、啓林館、教育出版を選びました。

今回の構成で注目すべき点は、各者とも四季を追った展開がされていることです。啓林館は上巻で「学校と生活」、下巻で「地域と生活」をテーマに公園や町、野原などの季節の変化やそこで生活する人々、動物や植物の変化を気づかせるようにしています。教育出版は1本の木の変化から、季節の移り変わりを追うことができ、視覚的にとらえやすいものになっています。東京書籍も季節感のある構成で、季節の変化を気づかせるように工夫しています。

また生活科では学校だけではなく、地域に出かけて学習するケースが多くありますので、安全指導の徹底も必要であろうと思います。この安全指導の中にはもちろん交通安全もありますし、不審者対応も含まれています。この安全指導といった面では、東京書籍と啓林館が多く取り上げています。どちらかといいますと、キャラクターの発言やマークで適宜注意を促している啓林館の方が子どもたちの目につきやすいといいますか、注意を促すポイントがはっきりしているように思いました。教育出版も安全指導はありましたが、東京書籍や啓林館と比べますと、割合が少ないように思います。

最後に資料の充実という点で、啓林館では別冊として「めいじんブック」、教育出版は「ぐんぐんちからポケット」「ぐんぐんまなぶポケット」、東京書籍では「ポケットずかん」「べんりてちょう」などがありますが、啓林館の「めいじんブック」が持ち運びにも適した大きさだし、児童の活動を広げ、深めるための資料として活用できるものだと思います。この啓林館の「めいじんブック」は、審議委員会や市民からのアンケートでも好評を得ています。ただ、入学時の1年生にとっては内容がやや多過ぎるといったご指摘もございました。

以上の点から、最初に申し上げました、東京書籍、啓林館、教育出版がよろしいと思いますが、どれか一つというふうに言われますと、私は啓林館がよろしいのではと思っております。

以上です。

○伊藤委員長

ほかにかがででしょうか。今、東京書籍、教育出版、啓林館、3者。中でも啓林館というご意見がありました。

7者ですので、なかなか絞りきるのが大変ですし、それぞれにいいところがあるというのが、この生活の教科書かと思います。

否定的な文言が、例えば審議委員会から挙がっているのでは、光村が使いこなすのが多少難しいというようなことが出ておりますし、日本文教出版もやや難しいといったことも何点か出ておりますが、今挙げられた3者に関しましては、高評価が見られます。

小平の子どもたちが生活科を学ぶのにどの教科書が適しているか、そういった、あとそうですね、気づきの質を高めるといことがポイントと伺っておりますが、いかがでございましょうか。荒畑委員、いかがですか。

○荒畑委員

生活につきましては、私は吉田委員と同じ啓林館がいいのではないかというふうに思っております。その審議委員会の意見集約としまして、写真や挿絵、資料が豊富でイメージが持ちやすいもの、また例示が豊富で教員にとっても使いやすいものというふうに言われております。

また今委員長がおっしゃいましたように、「気づき」の質を深めることができるような本ということも頭に置きましていろいろ考えました。

それから、安全面の配慮ということで、啓林館が3冊別冊を入れて、できております。そのようなことから、学習指導要領に基づき内容が大変正確でかつ公平であるということ、また昆虫、植物、生物の名前、あいさつとか、お礼の仕方、発表の仕方などが具体的に示してある。一番印象の残りましたのは、構成が季節の移り変わりを中心にされていて、大変使いやすいということ。それから配慮を要する子どもへの対処の仕方も示されていて、非常にいいのではないかなというふうに思います。

そのような理由で、啓林館を推薦いたしたいと思います。

以上です。

○伊藤委員長

ほかにご意見ございますでしょうか。森井委員いかがですか。

○森井委員

生活については、さまざまな体験活動を通して児童がみずから工夫したり考えたりするような内容が望ましいと審議委員会からの報告もあるように、絵や写真がきれいなことや、資料が豊富なことも重要な要素になると思います。

吉田委員、荒畑委員のお話から、東京書籍、教育出版、啓林館がいいというお話でしたが、私も東京書籍の「ポケットずかん」や、教育出版の「ぐんぐんちからポケット」「ぐんぐんまなぶポケット」というのは児童にとっても、とてもわかりやすく説明されていると感じました。また、

持ち運びに適した大きさであるということからも、啓林館の別冊「せいかつめいじんブック」も発展的な内容ということもあり、大変よいと思います。

どの資料も楽しく興味を持って学習に取り組むために活用できるものだと思います。7者とも本当にいいと思いますが、私としては東京書籍と教育出版がいいのではないかと感じています。

○伊藤委員長

教育長、いかがでしょうか。

○阪本教育長

生活科というのは調べ学習ではないのですよね。だから子どもの「気づき」を大切にするのですから、逆に言うところらが余り情報を提供したりということではなくて、子どもの素直な「気づき」をこちらがしっかり、場面を設定しながらいろんな「気づき」を汲みとってあげることです。

ですから、学習指導要領の改訂のポイントでも「関心を持つこと、気づくこと、わかること、考えること」ですから、まずはしっかり自分の目で、自分の感覚で「感じる」と「気づく」ということの方を中心に考えればいいのかと思います。ですから、いろんなものを持ってということよりもそちらの方を優先すべきだと私は思います。

また、いろんな活動によっては当然安全配慮ですが、低学年の場合はやはり教師の管理掌握においての活動ということでない、非常に危険を伴うということが考えられます。これはどこの会社も気をつけて編集されていると思いますが、東京書籍はそういう面では「気づき」とか、やってみようという発展的な活動を促す内容とか、それから安全に関しては121カ所取り上げているような安全配慮をしているなどと思います。また、繰り返しになりますが、しっかりと感じ取るような活動を意図的にやっているなど思っております。

以上です。

○伊藤委員長

東京書籍、教育出版、啓林館ということですけども、私は教育出版がよろしいのではないかなど。もちろん何者か、東京書籍、教育出版、啓林館、3者がいい中で、教育出版がいいのではないかなというふうに思っております。それは非常にわかりやすさ、視覚的にすっきりとしていると思います。

啓林館の情報が多いこと、「気づき」を引き出しやすいということで、確かにいい教科書だと思うのですが、使いこなしていくのにちょっと紙面の情報量が多過ぎるのではないかなという心配もあります。ただ、それでもその方がより「気づき」を引き出しやすいというのであれば、それがいいのかもしれませんが、ご意見の分かれるところかもしれません。

あと、教育出版のよさは他教科と関連づけて活用できるようにしているということがいいかと思います。

7者ですので、ちょっとこれは3者残しますか。皆さん、それぞれのご意見がありますので、低学年が使用するものであるだけに、もうちょっとよく見て検討したいと存じます。

それでは3者残すといたしましょうか、さらに検討を重ねることとして、生活につきましては、発行者名、東京書籍、図書名「あたらしい せいかつ」、それから発行者名、教育出版、図書名「せいかつ」、そして発行者名、新興出版社啓林館、図書名「わくわくせいかつ、せいかつめいじんブック、いきいきせいかつ」、この3発行者のものを議案候補としてさらに検討を重ねたいと存じます。よろしいでしょうか。

—了承の意思表示あり—

○伊藤委員長

次に、音楽に移ります。

音楽の主な改訂ポイントについて、事務局より説明願います。

○内野教育部理事

音楽科における新しい学習指導要領の改訂のポイントについてご説明いたします。

教科の最終的な目標であります、豊かな情操を養うことについては、児童の全人的な育成を担う上で音楽科には大きな役割がございまして、この基本的な理念は変わらず踏襲されております。

また内容構成につきましては改善がございました。表現と鑑賞という二つの領域に加えまして、新たに共通事項という項目が設定されました。これは音楽の仕組みの学習や、美しさを感じて支えることを支援するものでございます。

また鑑賞につきましては、鑑賞教材として、我が国の音楽の充実が求められているところが改善の大きなポイントではないかと思っております。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、音楽の協議に入ります。音楽につきましては、発行者3者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい音楽」、教育出版が「小学音楽 音楽のおくりもの」、教育芸術社が「小学生の音楽」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思っております。いかがでしょうか。

○森井委員

音楽に関しましては、審議委員会からの結果から見ても3者とも学習の目標が明確であり、また新しい学習指導要領に示されているように、唱歌や民謡、郷土に伝わる歌などの日本の伝統音楽についても充実していると思っております。

また、リコーダーや銀盤ハーモニカの導入についても丁寧に詳しく書かれていると思いました。中でも、私は教育芸術社の教科書がすぐれていると思いました。第一に、歌にあった写真や資料が載っているという点。また共通教材を心の歌としてまとめているページには、その曲に関する一言が載せられていて、曲のイメージが広がる手助けになると感じました。

第二に3学年のリコーダーの導入で各者とも丁寧に書かれていますが、穴のふさぎ方について指の腹を使うというように、具体的に明記されていることで、児童にはもちろん指導者が説明する上でも指導しやすいと感じました。

第三に新学習指導要領に明記してある、国歌はいずれの学年においても歌えるよう指導することを受けて、各者の国歌の扱いについて見せていただいたところ、教育芸術社はすべての学年で裏表紙に掲載されており、他の曲とは一線を画して厳粛な感じを受けました。

以上の点から私としましては、教育芸術社がよいと思います。

以上です。

○伊藤委員長

ほかにご意見いかがでしょうか。

○荒畑委員

私も3者から選ぶとしましたら、教育芸術社を選びたいと思います。

まず、審議委員会の方の意見集約でございますが、歌のイメージが広がるように、歌にあった写真や資料が載っているもの、また学習の目標が明確に示されて、児童が無理なく学習を進められるものという意向が出されております。この点につきまして学習指導要領では唱歌や民謡、また郷土に伝わるなど、日本の伝統音楽について充実させるようになっている教科書なのかということが問われておりますけれども、教育芸術社につきましてはキャラクターに吹き出しのコメントが大変学習の方向づけを示してくれております。

また各教材の前に学習目標や学習活動が書かれておりますので、学習の進め方が大変わかりやすく、児童にも負担にならないのではないかと思います。

また森井委員がおっしゃいましたように、すべての学年で国歌が裏表紙に掲載されております、他の曲とは一線を隔して厳粛な感じがあるというのが非常によいのではないかと思います。

こういった意味で総合的に見ますと、教育芸術社の教科書を推薦いたしたいと思います。

以上でございます。

○伊藤委員長

3者のうちお二方が教育芸術社のものを押しておられますけれども、ひとつわたりご意見を伺います。吉田委員いかがでしょうか。

○吉田委員

私も同じく教育芸術社がよろしいと思います。内容的には今お二人の委員がおっしゃったとおりです。その中で特に国歌につきましては、皆さんもごらんになったと思いますが、ワールドカップサッカー大会で世界中の人たちが自分の国の歌、国歌に誇りを持ち、心を込めて歌っていました。やはりそういうことはとても大事なことだと思いますので、小学校の教科書の中での扱い方、あるいは位置づけというものはきちんとするべきだろうと思います。

○伊藤委員長

教育長、いかがですか。

○阪本教育長

先ほど理事からも全人的な教育を支えるのであるというようなこととか、今の子どもたち、豊かな情操を今こそまた改めて根づかせなくては、感じさせなくてはいけないと思っております。

そういう面では心の歌というページがあるように、教育芸術社の日本人としての心情、音楽が支える日本の心というか、日本の文化伝統を非常に意識した編集になっていると思っております。

また、選曲もそうですが、児童の心情に即したものがありますし、それから選曲のバランスもいいと。それから教材も豊富でありますし、最後には音楽科の学習を着実に進めることができるような、表記、内容になっているということを見ますと、私は教育芸術社がいいと思っております。

以上でございます。

○伊藤委員長

審議委員会からのご意見でも、例えば、東京書籍の方では歌詞の内容や曲の感じがオーソドックスな曲が多くて、もう少し変化が欲しいというご意見があるのに対しまして、題材のバリエーション、それから選曲が児童の発達段階にあっていて魅力的な曲が多いというのが教育芸術社の教科書ということでございます。

国歌の扱いに関しても全く私も同感です。

それから、伝統的な日本の音楽に対するページの割き方、表し方も非常にすぐれていると思います。教育芸術社がやはりいいと思いますが、これは皆さん一致している内容ですね。

それでは、皆様のご意見から、音楽につきましては、発行者名、教育芸術社、図書名「小学生の音楽」を議案候補といたしたいと存じます。いかがでしょうか。

―了承の意思表示あり―

○伊藤委員長

次に、図画工作に移ります。

図画工作の主な改訂ポイントについて、事務局より説明願います。

○内野教育部理事

図画工作の新学習指導要領の改訂のポイントについてご説明いたします。

この度の改訂では自分の感覚や活動を通して形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえて、これをもとに自分のイメージを十分にもたせる指導が重視されております。

また鑑賞では話したり聞いたりすること、また話し合ったりすることなどの学習活動を位置づけることによって、言語力の育成にも充実が図られるようになっております。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、図画工作の協議に入ります。図画工作につきましては、発行者3者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい図工」、開隆堂出版が「図画工作」、日本文教出版が「図画工作」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと存じます。どなたか。

○荒畑委員

それでは図画工作について申し上げたいと思います。

結論申し上げますと、私は日本文教出版がよろしいのではないかと思います。審議委員会の意向として三つのポイントが挙げられております。教材の構成が造形、遊び、平面、立体のバランスのよいもの、またつくり方、これは工作のことだと思うのですが、つくり方の説明が簡単でわかりやすいもの。また、図工の専科の教員でなくても1年間の指導の流れがわかりやすいもの。これは小学校の低学年は担任制ということがあるのではないかと思います。こういった意向も一応参考にさせていただき、またキーワードといたしましては、安全面への配慮はどうかということですが、これは3者ともいろいろ配慮をされております。

また、今理事がおっしゃいましたけれども、鑑賞における各学年の内容には話したり聞いたりする、話し合ったりするなどの学習活動が位置づけられ、言語活動の充実が図られておりますけれども、その鑑賞教材の数はどうなのかということを検討した場合に、日本文教出版が非常に多く、鑑賞教材の数においては多くなっております。

そのような意味で、日本文教出版を推薦いたしたいと思います。もう少し詳しく申し上げますと、学年に応じた教材のテーマの設定がされているということ。また吹き出しが多く、児童にわかりやすく、写真・イラスト・絵があり、大変見やすくつくられております。

それと「工夫」「気をつけよう」「振り返り」「片づけ」のコーナーで学習のポイントが示されている点が大変よいと思います。また各教科における言語活動の充実を意識した意図が他の教科書よりも強く感じられております。それから大変大判ですけれども、見やすくなっている点がいいと思います。

私といたしまして、子どもたちの感性、あるいは想像力を養い、学習意欲を引き出してくれる教科書ではないかと思えます。また児童一人一人が協力しながらみんなと楽しく過ごさせていけて心の教育にも大変役立つようになっている教科書なのではないかと思えます。

そういった意味で日本文教出版を推薦いたしたいと思えます。

以上です。

○伊藤委員長

ありがとうございます。

ただいま教科書の大きさの話がございましたが、日本文教出版は縦長になっていまして、ただA4の縦が2センチほど、恐らくランドセルを考慮して小さくなっていますので、ランドセルへの収納ということでは問題がないというふうなご意見を得ておりまして、確かにそうかと思えます。

それから鑑賞の題材数ということも話がありました。それに関しましては東京都教育委員会の教科書の調査研究資料をいただいておりますが、鑑賞の題材数が日本文教出版が一番多く、また鑑賞学習用の資料の数は開隆堂の方が多いのですが、題材と資料の両方を合わせますと、やはり日本文教出版が数としては、これは単純な数を調査したものでございますけれども、多くなっているようです。

ほかの委員の皆さん、いかがでしょうか。森井委員、いかがですか。

○森井委員

私も3者共、大変よくできているので大変迷いました。特に選ぶとすれば、開隆堂か日本文教出版だと思いました。

日本文教出版は内容的にはすばらしいと思うのですが、5、6年の教科書で字がとても多いような気がして、図工の教科書としてあまり字が多いのはどうなのかと思う反面、指導しやすいのではないかと考える面もあり、とても迷うところです。

○伊藤委員長

私も実は大変迷って、全く3者、一長一短ということは語弊があるかもしれませんが、それぞれによく、それぞれに少々心配な点もあるということを感じますね。

鑑賞が今回の改訂のポイントにも出ておりましたが、美術館を利用、連携した活動という、その示唆、指導の助けがあるのは、開隆堂ではないかなというふうに思います。

日本文教出版は説明文が多いというのは、ちょっと心配です。児童の主体的な言語活動の重視から恐らく日本文教出版は説明文を多くし、言語活動を盛んにする助けとしよう、きっかけとしようとして、そういうことを掲載したのかとも思うのですが、そこがどう使いこなせるのか、そこで完結されてしまうのかということも心配です。

その点、開隆堂は児童のつぶやきや思いを掲載して、教室の児童の感じたことを言葉にするき

っかけにもなるのではないかと。

また東京書籍は例示が多いのですけれども、この例示が多い、あるいは題材が多いということ、多いから選択しにくいという現場の評価もあれば、多いから使いやすいという評価もありまして、現場の先生方も非常に評価が分かれているようでございます。

教育長、いかがでしょうか。

○阪本教育長

私も見れば少し違いはわかるのですが、なかなか非常に難しい。確かにこういう芸術的なものについては、余り説明とかいうものは必要なくて、子どもの直感とか感性というものを最初にとっても大切にすべきだと私は思います。

しかし、それもどこの会社も求めているものでありますし、総合的な所見をいただきましたが、その中では開隆堂の方が少しだけ、子どもの主体的な活動を引き出そうというような構成になっているのかなと思います。一番大切にしたい目当てとかをマークで示したり、巻末にちゃんと道具箱の安全な使い方を、注意事項を書いてありますし、そして今キャリア教育でいいますと、作家の紹介があつたりとかいうのも少しいいと思います。

そういう面では、ほかのところよりも少しだけ先生にも使いやすいのかなと。特に、全部専科が授業をやるというわけではありません。特に低学年は。そういう面では普通の学級担任が使うということを考えますと、東京書籍、日本文教出版よりも開隆堂の方が少し使いやすいのかなというくらいのところでございます。

○伊藤委員長

吉田委員、いかがでしょうか。

○吉田委員

私も日本文教出版と開隆堂を候補に挙げておりました。確かに日本文教出版は先ほどからお話がございますように、文字が多い。それが少し気にかかる点でございます。

開隆堂ですが、写真の彩度が高いため、少しギラギラしているというようなお話もございます。それから最初の1ページが袋状になっているので、最初に開けるときに開けづらい、何か違和感を感じたというのがございます。

あと内容的には、皆さんがおっしゃったように、両方とも作品例も多く、いかにも子どもたちが挑戦したいなという感じの作品例になっておりますので、よろしいと思います。

ですから、私は今ちょっと決めかねております。日本文教出版と開隆堂、どちらにしようかと考えております。

○伊藤委員長

そうですね。日本文教出版を押しご意見、それから日本文教出版と開隆堂をどちらかといえば

押すご意見、3者のうち2者に絞られているようでございますね。

東京書籍もいろいろな内容が示されていてよろしいという意見、それから児童の主体性を引き出そうとする点もよろしいのですが、使い勝手としまして2学年を1冊にしているため、ちょっとその辺は使いにくいのではないかなというご意見があります。

あと、開隆堂のご意見がありました。審議委員会からも出ていますが、開隆堂が色彩が少しギラギラするという印象は皆さんお持ちになりましたでしょうか。こういったことは、指導に際してはどのような影響があるのかというあたりも伺ってよろしいでしょうか。いかがでしょうか。

○島川教育部参事

子どもにとって、子どもが受ける印象というところですが、どの子にも穏やかにという点、使いやすく子どもに入っていくという点では、そのギラギラというのはややマイナスに受け取る子どももいるかと思えます。

以上でございます。

○伊藤委員長

色彩に対して、いろんな色覚障害を持ったお子さんもいますし、ちょっとその辺が心配な部分ではありますが、構成その他の点ではすぐれているというご意見もあります。

では、皆さんいかがでしょうか。2者をさらに検討しますか。

それでは、図画工作につきましては、2者候補にいたします。発行者名、開隆堂出版、図書名「図画工作」、発行者名、日本文教出版、図書名「図画工作」、この二つを議案候補として今後さらに検討をしたいと存じます。よろしいでしょうか。

—了承の意思表示あり—

○伊藤委員長

次に、家庭に移ります。

家庭の主な改訂ポイントについて、事務局より説明願います。

○内野教育部理事

家庭科の学習指導要領改訂のポイントについてご説明いたします。

教科の目標の基本的な考え方につきましては、衣食住や家族の生活に関する点でございます。日常生活における実践的な態度の育成の点では、改訂において変わるものはございません。

その上で指導の重点が一層図られた点としましては、家庭生活を大切にすることを、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度の育成が、重視されている点であると思えます。

具体的には食事の役割や栄養、調理に関する内容といった食育に関する内容や、また金銭の使

い方や物の選び方といった消費者教育に関する内容、また環境に配慮した物の活用といった、環境教育に関する内容の指導も重視されております。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、家庭の協議に入ります。家庭につきましては、発行者2者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい家庭」、開隆堂出版が「小学校 わたしたちの家庭科」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。

ちなみに家庭科の専科は19校のうち2校に配置されていると伺っております。間違いございませんね。ほとんど担任の先生が教えるということになります。

その関連で申し上げますと、初めて裁縫に取り組む作品があるのですけれども、それが東京書籍ではフェルトを使ってやるのですけれども、「つながるボックス」という立体的な作品で、開隆堂はネームプレートと平面的で易しいわけなのです。東京書籍の作品は少々難しいのではないかなと思います。何でもかんでも易しければいいというのではないのですが、とにかく最初は易しいものから入る、着実に習得していくということが大事かと思います。

また指導する側への配慮としましても、どの先生が指導しても指導しやすい、着実に指導できるということで、平易な作品から入っていく開隆堂の方がすぐれているのではないかなと私は見たのですが、皆様、いかがでございましょうか。今の理事のお答えの食育、環境教育、家族の中での自分とか、そういった指導要領改訂のポイントも参考にしながらご意見を伺いたいと思います。

荒畑委員、いかがですか。

○荒畑委員

それでは家庭について選ばせていただきます。2者のうち私は開隆堂の方を推薦いたしたいと思います。

審議委員会での意見集約では児童にとって大変使いやすいもの、また教員から見てマイナス評価の少ないものというご意向がございました。

またキーワードといたしましては、今理事からお話ございましたように、学習指導要領では食育の推進ということが言われております。この件につきましても開隆堂は食育のマークが教科書のページ部分につけられておりまして、児童にもわかりやすくするなどの工夫が大変してあります。

また安全面の配慮につきましてですけれども、どちらの会社も安全面については配慮されておりますけれども、特に開隆堂につきましては忘れがちな細かい点についても記述があり、大変丁寧に説明されております。

そのほか、言葉で書き込めるワークシートがあって、大変工夫されている。そういった点がよろしいのではないかと思います。

まとめますと、5、6年生の能力でつくれるような作品例が多くあり、作業のイメージがわかり、大変使いやすい。また学習の流れがわかりやすく分量も適切である。写真イラストがわかりやすく使われており、学習のヒントが示されている。それからワークシートの使い方も言葉で書き込めるような工夫がされている。最後に家庭だけではなくて地域にも目を向けているところがいいのではないかと思います。

以上です。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

ほかにご意見ございますでしょうか。

2者ですので、皆さんごらんになっていますが、今ちょうど食育のお話も改訂ポイントの中に出ましたが、例えば、東京書籍は「おいしいね 毎日の食事」というのがあって、開隆堂は「元気な毎日と食べ物」という単元があって、そこで「ご飯を炊く」というところがあるのですが、こちらが開隆堂の一連の「ご飯を炊く」、お釜の中の変化を表していきまして、写真のほかに図もあります。こちら東京書籍は写真だけで少々変化がわかりにくいのではないかと思います。ご飯とみそ汁というのはやはり日本人として非常に大事な食文化ですので、本来家庭でもですが、学校の家庭科でこのようにクラスのみんなと一緒に作業をし、確認をしていくということは非常に重要なことだと思います。それに対する教科書の内容がわかりやすいものであること、それから日本の食文化全体を学ぶきっかけのページもこのように広がり、発展しているということも、すぐれているのではないかと思います。

ほかにも皆さんいかがでしょうか。

○吉田委員

私も開隆堂がよろしいかと思います。ご飯を炊く場面、あるいは調理をしている場面、それを比べますと、開隆堂の方が見やすくわかりやすくつくられていると思います。

食育に関しましても、食育関連ページはご飯を盛ったイラストでページ数を囲ってありますから、これも非常にわかりやすいものとなっていると思います。

そういった面から私も開隆堂がよろしいかと思っております。

○伊藤委員長

森井委員、いかがですか。

○森井委員

私も皆様と同様の意見で開隆堂の教科書がいいと思います。やはり調理例や作品例が簡単なも

のが多く、子どもたちにとっても取り組みやすいと思います。また、先生が指導しやすいということが大きなポイントになるかと思います。

また食事をすることはとても大事なことです。そこから食育につなげていくという点からも開隆堂の教科書がいいと思いました。

○伊藤委員長

教育長、現場の状況などもよくご存じですよ。

○阪本教育長

私は開隆堂です。写真が豊富でわかりやすい、使いやすいといますか、それから振り返り、そして学習したものを生かすといますか、そういうのがしっかりされていると思います。

ちょっと違う言い方になりますけれども、私はこれを見て、自分の手元に置いて必要な時に使えるなと思いました。そういう面では子どもたちのこれを持って自立的な生活が送れるような、見やすいといますか、使いやすいとか、使いたいというようなどころがあると私は思っております。

ですから、開隆堂を私は推薦いたします。

○伊藤委員長

学習のための教科書ですが、子どもたちがわかりやすく、愛着を持てる教科書というのが非常に大事な点かと思います。

皆さんのご意見が開隆堂で一致しているようです。

それでは、家庭につきましては、発行者名、開隆堂、図書名「小学校 わたしたちの家庭科」ということで議案候補といたします。よろしいでしょうか。

ー了承の意思表示ありー

○伊藤委員長

次に、保健に移ります。

保健の主な改訂ポイントについて、事務局より説明願います。

○内野教育部理事

保健領域における新学習指導要領の改訂のポイントについてご説明いたします。

先ほどの家庭科と同様に、体育の中の保健領域におきましても食育の観点を踏まえ、健康的な生活習慣の形成に結びつけることが重視されております。

具体的な内容としましては、第3学年の「毎日の生活と健康」における心や体の健康状態にかかわる自分の気持ちや周囲の環境の要因について。また第5学年の「けがの防止」における身の

まわりの生活における危険が原因となって起こるけがには犯罪被害の防止も含まれております。また第6学年の「病気の予防」におきまして、保健所など地域で行われているさまざまな保健活動などが新しい内容として加えられております。

以上でございます。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

それでは、保健の協議に入ります。保健につきましては、発行者5者から見本本の提出がございました。図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい保健」、大日本図書が「たのしい保健」、文教社が「わたしたちの保健」、光文書院が「新版 小学保健」、学研教育みらいが「みんなの保健」となっております。

それでは、ご意見を伺いたいと思います。どうぞお出してください。

○吉田委員

ただいまご説明いただきました学習指導要領の改訂ポイントや、審議委員会の報告を踏まえ、5者の教科書を拝見させていただきましたが、その中で私は学習研究社、それと東京書籍がよかったと思います。

学習研究社は3年生で初めて学ぶ保健学習を「かけがえのない健康」と題し、健康とはどういうことなのか、健康には何の関係しているのかなどしっかり書かれ、規則正しい生活の大切さを説いています。

また、小学生の間に心や体に大きな変化が起こりますが、1人で悩まず相談することの大切さ、またそのことについては先生や親、友達の体験談を通して、みんな違うし、人それぞれでよいという考え方があらわれており、児童が安心感を持って学習できるところがよいと思います。

またけがの防止やけがの手当てなどは、イラストや文字の色を赤と黒に分けて、わかりやすく表示し、自分でも解決できるよう手助けしています。特にけがの手当ての単元では、熱中症の予防や手当ても詳しく書かれています。

審議委員会からはワークシートとして活用されることが多いので、書き込みながらやっていけるものがよいというお話でしたが、学習研究社の教科書はそれにも対応できています。

次に、東京書籍ですが、こちらも各領域が順を追って構成され、子どもたちが使いやすい教科書にでき上がっていると思います。学習した後に振り返ることができるよう、各単元の終わりには「広げよう、学習を振り返ろう」というページが設定されております。

この「広げよう」のページでは、小単元の横に関連したページ数が書かれていたので、振り返り学習の手助けとなっています。

それから知識を活用する学習では、「活用」という囲い込みのスペースが設けられ、児童の考える力、思いやりの心をはぐくむことができると思います。しかし文字が細か過ぎたり、写真やイラストがちょっと濃いページがあったりするのが少し気になる点でもございました。

以上2者の教科書から選びたいと思いますが、どちらかといいますと、私は学習研究社の方がよろしいのではという感じを持ちました。

以上です。

○伊藤委員長

ほかにご意見ございますか。

○森井委員

私も学研と東京書籍がいいと思います。学研は学ぶことのテーマがはっきりしていること。全体的にすっきりしていて優しい印象を受けました。特に思春期の体のつくりの学習では男女の性差のイラストもどぎつなく、体験談を通して個人が尊重される安心感が感じられるのもいいと思いました。

東京書籍は新学習指導要領に基づいて取り組みやすいように単元が順序立てて進んでいる点や、吹き出しの問いかけに児童の自主的な考えを促す効果があるように思いました。ですが、中学年は見やすいページ構成であるのに反して、高学年では多少内容を盛り込み過ぎているような感じも受けました。しかし、学習の振り返りや指導が充実していて、いいとも思いました。

5者の教科書を見せていただきまして、5、6年の病気の予防の単元の中で、東京書籍と学研は「飲酒の害」と記載されていたのですが、他者では「酒の害」と明記されており、保護者目線でも言わせていただければ、そういった言葉の使い方にも配慮のあるなしを感じました。

以上です。

○伊藤委員長

荒畑委員、どうぞ。

○荒畑委員

私も学習研究社を推薦いたしたいと思います。学研の場合には文字数が少なくしてあって、児童が自分の力で理解できるように大変工夫されていることと、また思春期の体のつくりでは先ほどもお話がございましたように、体験談が多く掲載されており、児童が非常に安心感を持てるのではないかと思います。

それと、作文事例が多く、ページごとに何を学習するのかがよくわかる表記になっておりまして、字が大変大きく読みやすく、図も絵も写真のバランスも大変いいのではないかと思います。

以上で学研を推薦いたしたいと思います。

○伊藤委員長

ありがとうございました。

教育長、いかがですか。

○阪本教育長

やはり学研かなと思います。皆様のおっしゃいますように、9歳10歳の壁がある中でスムーズに子どもたちに、安心して学ばせるといいますか、そういうものについては学研が子どもの体験談を通して、みんなと同じだよと、またほかではそれぞれが違っていいのだよという個性を尊重しているところがたくさんあるかなと思います。

また、非常に見やすいといえますか、目標が、目当てがはっきりしているというようなこともいいかと思います。写真や絵や図のバランスもいいと思いますし、ヘルスプロモーションというような概念ですか、その考え方がいろんな場面で見られるということもこれからの保健体育に必要なことかなと思います。

以上でございます。

○伊藤委員長

皆さん学研で意見が一致しているようですが、私も結論から申し上げますと、やはり学研がよろしいかと思います。

見やすさで見た場合、東京書籍、大日本図書、学研の3者が残ると思います。その中でも課題解決型の学習に向いているものというのは、各学校の先生方なども、大日本図書、学研が挙げられています。

それから、その中でも特にワークシートとしての活用などを見ますと、学研がすぐれている。それから健康面でメンタルな心の健康ということが、今、大人の社会でも非常に重要な問題となってきました。小学校5、6年生からそのことについて周りの人とオープンに話をする、このことを話題にするということは大事なことです。その心の不安や悩みについて学研と東京書籍をちょっと比べてみたいと思います。東京書籍の方は「不安や悩みがあるとき」として、こういったイラストを書いて、不安や悩みがあるときは身近な人に話を聞いてもらう、友達と遊ぶ、自分の好きなことをするなど気持ちを楽にしたり気分を変えたりして自分にあったいろいろな方法で対処することができますと、言い切っているわけなのですね。言い切って、このくらいでページが終わっております。もうちょっとページを割いてほしいと思うのですが、その点学研の方は、不安や悩みがだんだん増えてきますよということをまず言って、不安や悩みを抱えたとき、どうすればいいのか、下の図を参考にして話し合ってみましょうということで、みずから考え、回りの人とも話し合うという非常に大事なことをこの教科書の構成、内容が促している。しかも思春期のことに関連してもページを割いていまして、子どもたちにとってわかりやすく、自分の健康を考える手だてとしやすい内容ではないかなとこの部分を見ただけでも思います。

そういったことから、学研がよろしいかと思います。皆様ご意見が一致したということで。

○吉田委員

先ほど学習研究社と言ってしまいましたが、実際は学研教育みらいです。大変失礼いたしました

た。訂正いたします。

○伊藤委員長

ありがとうございます。

それでは、委員の皆様のご意見が一致しましたので、保健につきましては、発行者名、学研教育みらい、図書名「みんなの保健」を議案候補といたしたいと存じます。いかがでしょうか。よろしいですか。

－了承の意思表示あり－

○伊藤委員長

それでは、以上で本日の協議を終了いたします。

次回8月30日において、本日の協議結果に基づきまして、種目ごとに候補を1者に絞り、それらを議案の原案といたしたいと存じます。

終わりに、次回の教育委員会定例会ですが、平成22年8月30日、月曜日、午後2時から市役所5階505会議室で開催いたします。

なお、参集時刻は午後1時30分といたします。

以上をもちまして、本日の日程はすべて終了いたしました。これをもちまして、教育委員会8月臨時会を閉会いたします。

ありがとうございました。

午後4時45分 閉会